

風のように

甘木教会



牧師：竹田孝一

11 あなたの神、主があなたとあなたの家族に与えられたすべての賜物を、レビ人およびあなたの中に住んでいる寄留者と共に喜び祝いなさい。 申命記 26:1 1

10:8b 「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。 9 □でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。 10 実に、人は心で信じて義とされ、□で公に言い表して救われるのです。 11 聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。 12 ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。 13 「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

ローマの信徒への手紙 10:8b~13

13 悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。

ルカによる福音書 4:1 3

【説教要旨】 近くにいましたまえ

アメリカ大統領の暴挙は、世界をかき乱し、世界が大戦に突入するのではないかという新帝国主義の到来は、終末観で漂っています。

歴史学者ハラリ氏は21世紀を次のように言っています。「私たちは21世紀にはこれまでのどんな時代にも見られなかったほどの強力な虚構と全体主義な宗教を生み出すだろう。そうした宗教はバイオテクノロジーとコンピューターアルゴリズムの助けを借り、私たちの生活を絶え間なく支配するだけでなく、私たちの体や脳や心を形作ったり、天国も地獄も備わったバーチャ世界をそっくり創造したりすることも出来るようになるだろう。したがって、虚構と現実、宗教と科学を区別するのはいよ

いよ難しくなるが、その能力はかつてないほど重要になる」

虚構は客観的現実ではありません。しかし、虚構は道具にすぎません。しかし、虚構は現実を変え、現実との違いをあやふやにし、人間の目標を決め、人間を利用する嫌いがありますと訳者の柴田裕之氏は説明しています。

1991年12月8日にベロヴェーシ合意を交わしました。「我々、ベラルーシ共和国、ロシア連邦、ウクライナは、1922年の連邦結成条約署名したソヴィエト社会主義共和国の設立国家として、国際法の対象と地勢学的現実としてのソヴィエト社会主義共和国がその存在を終えることを、ここに確定する」と署名したのです。人類を滅ぼすほどのソ連はこの署名で消えたはずです。これは虚構であったのです。ハリ氏は「ベロヴェーシ合意の署名。ペンが紙に触れ、その途端に、あらゆる不思議！ソ連が消えてなくなった。」と虚構を皮肉っています。

プーチンは、「核戦争で脅かすウクライナ侵略。ロシアの軍隊がウクライナ地に触れ、その途端にあらゆる不思議！ソヴィエト社会主義共和国が復活」というこれも虚構を作っているのではないのでしょうか。虚構によって無理やり変えようとするかつての人間至上主義が頭をもたげています。

ハリ氏が「虚構と現実、宗教と科学を区別するのはいよいよ難しくなるが、その能力はかつてないほど重要になる」と言うように私たちに教えているのではないのでしょうか。

私たちのキリスト教信仰は、どう虚構と現実、宗教と科学を区別する能力を持つかということが21世紀に宣教の道筋を問われています。

本日の福音書の聖書の個所は、イエスさまの荒野の試練です。パンとは経済、権力とは政治、万能とは人間至上主義です。経済を、政治を握れば、何でも出来るという人間至上主義の誘惑に私たちはかられます。それは虚構だとイエスさまは言われるのです。

イエスは、「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」と。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」と。「『あなたの神である主を試してはならない』と書かれている」とお答えになられました。

聖霊に生きる私たち信仰者も「さて、イエスは聖霊に満ちて、

ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒れ野の中を“霊”によって引き回され、4: 1」ということが起きてくるでしょう。イエスさまが誘惑と試練を受けることによって、この誘惑は虚構であるときっぱりと示されました。虚構と現実があやふやにされ、強力な虚構と全体主義な宗教を生み出すことにならないように目を覚ましておかななくてははいけないと思います。「あなたの神である主を試してはならない」ということです。ますます、「聖霊に満ち」、霊性の回復です。聖霊に満たされるということなくして、虚構と現実の区別が出来なくなります。私たちはキリストを信頼し、自己確信、知的承認に陥らないように聖霊に満たされることを祈ることで。人間に与えられた政治経済、能力つまり社会、科学技術が聖霊から独り立ちし私たちを滅ぼすということです。ロシアの原発の攻撃はまさに人類滅亡と言うことへひた走りしていることを示しています。

では、信仰を生きるということは具体的にどうことでしょうか。11 あなたの神、主があなたとあなたの家族に与えられたすべての賜物を、レビ人およびあなたの中に住んでいる寄留者と共に喜び祝いなさい。申命記26：11、12 ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。13「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。とあるように寄留者、ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人と共に喜び祝い、豊かにお恵みを神から受けていることに感謝し、この感謝を同じように国、人種の区別なく、すべての人と喜び、豊かな恵みを与えるような弛まない丁寧な奉仕の業をすることです。

「キリスト者はすべてのものの上に立つ自由な主人であって、誰にも服さない。キリスト者はすべてのものに仕える僕であって、誰にでも服する。(キリスト者の自由)」

神は近くにいまして、私たちを聖霊に満たしておられます。

牧師室の小窓からのぞいてみると



「一方的にその言動から『与太郎はばかだ』と断じるのはつまりファシズムだ。言葉の世界で生きてゆこうとするのが落語ならば、その与太郎なりのロジック分析してみる。俺は小さな子供と接する時です、言葉を通じて向こうの価値観に触れようとしているんだぞと、……」

（「人生を味合う 古典落語の名文句」立川談慶 PHP文庫）、今の世界の最も欠けていることを言っている。「言葉を通じて向こうの価値観に触れようとしている」ということである。だから、一方的に断じ、力で抑えようとする。ファシズムとの戦いが現代かもしれない。

それがウクライナ和平を巡っての先のアメリカ大統領・トランプのあの姿すがたである。世界の終わりは近い。終わりに備えよ。

園長・瞑想？迷走記



前任地、大森は息子のアドバイスもあり、教会学校は教会立の幼稚園として幼稚園の教育・保育の業とした。そのた体系を整えていった。そこでは、教育者・保育者の先生と子ども（卒園生も含め）、日頃と違う交流が出来た。ここから家族で洗礼者がでた。

新型コロナウイルス感染拡大で、教会学校が自粛されていたときには、先生方に変わって、私と家内と山口さんと教会学校を開き、数名の子どもと「こどもさんびか」を讃美していた。

そんな中で気になっていた讃美歌が「48番こどもをまねく」であった。リズム感もあり、爽やか讃美歌で、つい口ずさんでしまう。作曲は津川主一という人である。著書に「日曜学校音楽」、「日曜学校・幼稚園聖歌集」、「こども聖歌集 銀の星」などもある。「牧人、羊を」の讃美歌は、彼の訳であり、「ロンドデリー」も彼の訳である。

牧師2代目だったが、牧師を途中で辞し、音楽家になった。音楽を通して福音を伝えていく決意をしたのだろう。こういう生き方もあるだろうと。子どもたちへの讃美歌を提供し続けたことに感謝する。

日曜日の朝、子供たちの讃美が教会に響き始める感激を味わいたいですね。教会学校（朝の礼拝）が、再開できれば願っている。

日毎の糧

聖書：御救いの喜びを再びわたしに味わわせ／自由の霊によって支えてください。 詩編51：14



ルターの言葉から

聖霊は、痛みを伴う恐れ of 気持ちや偽りの愛からではなく、心の底から神に仕えたいという願いを人に起こさせます。……「喜んで仕える霊(新改訳聖書、新共同訳聖書では「自由の霊」)」というこの一語は、ヘブル語で、気持ちの良い、強いられない霊を意味しています。強制による行為はすべて長続きしません。自由な意志に基づく行為は永続的なのです。

七つの悔い改めの詩篇

『マルティン・ルター日々のみことば』 鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

便器にイエスさまが

「キリスト者はすべてのものの上に立つ自由な主人であって、誰にも服さない。

キリスト者はすべてのものに仕える僕であって、誰にでも服する。」 (「キリスト者の自由」 徳善義和訳 新地書房)

宗教改革 3 大文書の一つの「キリスト者の自由」で、ルターの間人観が出ている。キリスト者は、何にも束縛されない「自由な主人」であり、何にも拘束される「奉仕する僕」であるという矛盾した者である。「自由な主人」とは、「内的信仰」つまり魂である。魂は救いの喜びに満ち、何にも束縛れない自由な者とされ、その自由は、隣人への愛となって、「外的な愛の行為」となる。

慈愛園でディアコニアキャンプをしたとき、一人の青年が来る日も来る日も便器を掃除していた。それは、いやそうな気持ちを感じさせなかった。「この園で、一番必要で、汚れている所にイエスさまがおられると思うと、便器の中であると気づきました」と青年は言った。これが自由な霊(喜んで仕える霊)に支えられた人の姿と感動し、今も自分の心としている。

祈り: 喜んで仕える霊に支えられ、人に使える者としてください。

甘木通信

父がくれた財産



いまでも欲しいと思うのが、私が買って欲しいと強請ったコンパクトな昆虫図鑑、魚類図鑑、貝図鑑、植物図鑑であった。今でも鮮明に美しい図鑑の絵が忘れられない。父はつけて買ってくれた。本、参考書、父は黙って買ってくれた。今でも感謝している。しかし、行きたい私立学校は家庭の事情、私の大病での出費が重なり、行けなかった。

そんな両親の姿勢に感謝している。だから息子らには私立学校に行けるようにした。中学1年間から大学校まで6年間、東京の自由学園入りたいというので入れた。一応、奨学金をとったが、後に家内が払い、彼ら名義で貯金している。その後、それぞれが神学部、教育学部に進みたいというのでお金で困らないように学費の全額を出した。

この歳になり、死も近く、あちらの世界で会ったときには、父、母に感謝し、あなたたちのように勉強したいということに出来ることを子どもたちにしました」ということを言うだけでも嬉しい。


これも自分の力ではない。妻がいろいろと家の家計を婦人之友の家計簿使って、資金管理をして、資金を貯めてくれたことだと思う。死相の見てきた家内の寝顔を見ながら感謝して手を合わせる。

父、母に合わす顔が出来ると安堵。

(甘木日記)土) 朝早くから業者が入るので早く日善幼稚園へ行く。甘木に夕方、遅く行くとM牧師が雨の中を迎えて来てくださる。疲れていたのので仏さまに見え、手を合わせる。夜、甘木聖和幼稚園歴史のパワーポイント作り。日) 雨で、広い園庭の掃除から解放。聖餐式、共に感謝。月) 幼稚園が始まると思うだけで胃が重い。面接、zoom会議。火) 保護者会復活のための準備総会。昨今、保護者会が消えていく幼稚園もあるが、大切にしたい。水) 主任の公休。こんな時が忙しい。園長会。そして、夜は「灰の水曜日礼拝」、6名の方が出席くださる。久留米まで車で信徒さんが送ってくださる。こういう方で自分が立っておられる。木) 2025年度幼稚園活動のための運営委員会。金) 確定申告に税務署。年金事務所。今週もここまで来たが胃が重い。家内が寝込んでいる。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）朝早くからエアコーン取り換え業者が入るので、日善幼稚園へ行く。この部屋で集会を開ける。胃が重い。気分転換に髪を切り、洗い、マッサージに行く。マッサージは今一で逆に疲れる。甘木に向かう脚も重いところを雨の中を駅までM牧師が迎えにきてくださる。仏さまに見える。夜、聖和幼稚園の歴史のパワーポイント作りをする。歴史は面白い。日）雨の後だったので、広い園庭は掃除をしないで、外回りだけをする。胃の重さは残り気分が重い。ブラジルの時なら居候に鍼灸師がいて、それが上手かった。彼がいたならと針で治療してくれるのと思いつつ、お灸をすえる。月）面接、羽村のzoom会議。胃が重い。火）保護者を再開させる総会を開く。2025年は保護者も加わり保育へ。子どもを中心として保護者、職員が歩める時が出来るかな。水）「灰の水曜日」の礼拝式文を作り忘れて、飛び起きて作る。主任の息子さんの大学卒業で休み。早くから幼稚園に行く。園長会出席。

「灰の水曜日」の礼拝ためにばたばと電車に乗り、甘木に。6名が出席。学校の教務で疲れた信徒さんが車まで送ってくださる。家内がビデオ見ている。「宗教の時間」。常総で外国人労働者のために自分をささげている助祭だった。反省させられた。木）早朝、起きて2025年度園の方針、事務の方が資料を整えて下さった資料で予算を立てる。これが面白くて夢中になる。電話があり、仕事を途中で切る。それであるが、食べられず。ごら幼稚園運営委員会。薬を飲まないなので、辞任しようと思うが、話の流れの中で辞めるこ

重荷と若い牧師からよく聞く？今から46年前の初任地は兼任し、養護施設の牧師をしていた。ブラジルは夜行で20数時間バスに揺られ、着いて数時間を兼任。帰国し、兼任で、信徒が安心して信仰を続けられるか宣教方法、「複数共同牧会」という宣教論を立て、実践した。今は、週日の幼稚園、土、日曜日は、50分をかけて重いリュックを背負って甘木に泊まり、兼任。昔と今では違うと思うが、兼任って面白いよねと若い牧師の口から聞きたい。長男は私に近く、一人、理解者がいるのは嬉しい。金）今日も胃のつかえが取れない。時間を見て確定申告で税務署に、後、年金事務所に行く。年間、年金総額が158万円以上は税金がかかると知り、びっくりだが、税金だけはしっかりと納めたい。帰ると家内が寝込んでいる。家内は寝込むと何も食べないから困った。